

事前説明時における主な意見

①公園などのオープンスペースで、さまざまな世代の人が出会い、**会話ができる何気ない日常があることが大切**であり、**カフェやベンチなどみんなが集まりやすい空間**を作っていくことが重要であると思う。

②企業に参画してもらうためには、**企業理念とつながるものがあるかが重要**である。そのために**自治体は、こういったコンセプトで空間の活用・整備を実施するの**かを計画段階で明らかにし、**広く周知する**必要があると考える。

企業側としてどう見せていくのかもあるが、**コンセプトが未来を向いているというのが大事**であると考え
る。企業理念といかにリンクするか、SDGsも一つの共通のコンセプトとなりうると考える。

③お金はかかるが、街並みのイメージが形作られる、**まちの顔になる重要な施策である**と思う。

統一されたデザインで街並みを作っているところは、人が集まる、住むというところにつながっている。

デザインを統一してまちをつくるという視点があってもいいのではないかと思う。

豊中市出身、またはゆかりのある建築家・デザイナーの協力を得るなどして、豊中ならではのデザインを作ることもいいのではないか。

④いろんな拠点ができると見た目が変わり、変わったというイメージになる。他自治体の例にもあるように、**市全体として基本となる柱を持っていながら、エリアごとにそれぞれの特色を打ち出していく**とよいと思う。事業者としては、**まちのめざす姿が企業理念として共感できたら、参画しやすい**と思う。また、他自治体でまちづくりがうまくいった事例をみると、**地域の人たち、特に若い世代の人たちが本当にこの地域をどうにかしたいという熱い思いがあったからだと感じる。****自分たちが参加したら、出来上がった後も責任を持つようになるので、当事者のこのエリアをこうしたいという意見と参画が大事**であると思う。

⑤公共施設については、一つの世代だけではなく、さまざまな世代の人が使えるのがいいと思う。**コンパクトにまとまって、だれもが集えて、一緒に使えるというのが大事**であると思う。それを大前提にしていく方向がいいのではないか。

⑥公共施設に多世代が集うためには、**集う場所として、カフェや一時保育などが併設されているなどの工夫**があるといいのではないか。例えば、図書館で、子育て中の保護者が子ども向けの絵本を選ぼうとしても、子どもと一緒にだどゆっくり探す時間もない。事前に調べていけばいいが、探せるかどうかは使える時間や、スキルなどのリテラシーの差が出てしまう。子どもを預けて、ゆっくり絵本を選ぶ時間を作ったり、カフェで話をしたり、休める空間になると、行こうという気持ちになるのではないか。

⑦子育て支援サービスを核とした、自治体独自のいわゆるエコシステム的な取り組みは、市民にとってもわかりやすいアピールにもなり、可能性はあると考える。ただし、必ずしも豊中で完結する必要はなく、排他的にならない柔軟性を持つということが重要であると思われる。その上で、インセンティブを設けて事業所の市内立地を進めることで、特に従業者側にはメリットが生まれるのではないか。

⑧奨励金のような事業所支援については、直接的な子育てサービス事業者だけではなく、関連事業者も含めて豊中で事業をしたいと思っている事業所は幅広く支援にした方がいいのではないかと思う。
キャリア継続のサポートの観点からも、市内にさまざまな仕事があることが重要であると思われる。

⑨出産後に復帰することすらあきらめる人も一定数いることから、いったん離職した人が復帰しやすい環境が重要である。キャリアにブランクが空きすぎると、即戦力にはなりづらい。ブランクはあってもスキルを落とさないという点が重要であると思うので、その部分をサポートする取組みも必要ではないかと考える。

⑩女性を変えるには男性も変わる必要がある。M字カーブがきついのは、男性の問題でもある。核家族が多く、すぐ近くに両親がいるわけではない中で、孤独感を減らすためには、企業が男性の育休を促進し、いかに育児に参加してもらうかを働きかけていくことが必要である。

⑪定住につなげるためには、豊中市がすでに強みとしている住環境、教育環境に加えて仕事環境がいいということが重要であると思う。社会的な人口増を考えたときに、大阪大学に近いという立地を活かして、今後伸びていく業種などの事業所が立地することで、新たな市内での雇用も期待され、職住近接により、結果的に子どもが育てやすい環境になるのではないかと考える。

- ⑫出産や子育て支援の部分に重点的に取り組むべきという意見もあるが、高等教育段階やそれ以降の世代の負担もあることから、そういった世代の税金が増加するなどの負担を減らす必要がある。
- ⑬豊中市の場合、市域ごとに市民の感じていることや状況が異なり、フタコブラクダのような状況であった場合、平均をとることにあまり意味がなく、市全体の平均をとるとミスリードになる可能性がある。主要なデータは地域別のデータをみて、検討することが重要である。